

# 児童虐待による死亡事例検証報告書の概要

## <検証目的>

児童が死亡するという痛ましい事件の再発防止を目的として、各関係機関における対応や体制等の検証を行うとともに、今後、取り組むべき課題を検討する。

## <事例概要>

令和3年2月、熊本県A市において、実母が児童(当時3歳)の腹部を殴打し転倒させ、頭部に重傷を負わせ死亡させるという事件が発生した。同年9月、熊本地方裁判所は実母に対し、懲役3年(執行猶予5年)の判決を言い渡した。

## <問題点・課題>

## <再発防止に向けた取組み>

### ①家庭状況の把握

○実母が育児に対する不安やストレスを持ち、児童が未熟児・障がい児であるなど、虐待のリスク要因があったが、実母からの負担感の訴えがなかった。また、離婚の経緯や現夫との同居の開始など関係機関は把握できていなかった。

◆未熟児、障がい児等がいる家庭は要支援度が高い傾向にあることを改めて認識し、保護者がおかれる環境の変化にも留意のうえ、家庭状況の把握に努めるとともに、関係者の資質向上や子ども家庭総合支援拠点の機能を高めていくことが必要。

### ②要保護児童対策地域協議会(要対協)等を活用したアセスメント

○様々な機関が支援をしているが、支援状況を十分に共有できておらず、支援の中心となる機関が不明確であった。また、個別ケース検討会議が行われていなかった。

◆要対協を活用して情報収集に努め、家庭状況を的確に把握・分析し、要対協の調整機関が関係機関との連絡調整を行い、個別ケース検討会議で支援にあたる各機関の役割分担を決めることが重要。

### ③母子保健分野等関係機関との連携

○母子保健担当部署と児童福祉担当部署の情報共有や緊密な連携ができていなかった。

◆母子保健担当部署と児童福祉担当部署が一体的に対応することが必要。